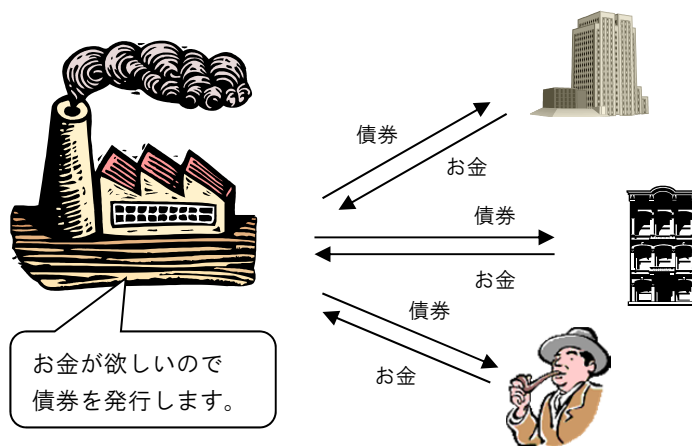


## レッスン09 債券とは何か

### (1) 債券とは

不特定多数の人から、資金を一度に借りようとする場合に、借り手が発行する証券です。債券を購入する人は、債券を手に入れる代わりに発行者にお金を貸すことになります。

図表 13



発行する側にとって、経済的機能は銀行借入と変わらないのですが…。

#### ■ 債券発行と銀行借入の違い（債券による借り入れと証書貸付による借り入れの違い）

資金を提供する側（お金を貸す側、たとえば銀行）からすると、基本的に貸したお金を返済期日前に回収することはできません。これが債券購入であった場合、債券の満期（償還日）前でも、別の投資家に債券を売却することで、投下資金を回収することが可能です。

債券の場合、非常にたくさんの投資家相手に同じ債券を渡すことで、大規模な資金調達が可能である一方、銀行借入と比べ、手間、事務コスト等が余計にかかることが多いので、一般論として、

- 大規模な資金調達 → 債券発行
- 少額の資金調達 → 銀行借入

という適性があります。

## （2）債券の内容を示す用語

債券は、借入証書と同様の意味を持ちますが、その債券の債務内容を表す用語は、一般の契約証書による借り入れなどで使われるものとはやや異なります。

### 1. 額面金額

借金の元本に相当する金額です。返済期日に借金の元本が返済されるように、債券が満期になるとこの金額が返済されます。また途中で受け取るクーポン（利息）の計算は

$$\text{額面金額} \times \text{クーポンレート} \times \text{対象期間} \quad (1 \text{年} = 1)$$

と計算されます。債券投資で受け取るキャッシュ・フローの大きさは額面金額に比例します。

### 2. 償還

債券が満期になって額面金額が返済されることを「償還」といいます。債券が発行されてから償還までの期間を償還年限などともいいます。

### 3. クーポン

途中で受け取る利子です。償還年限が1年以上の債券の場合、償還日までの間、毎年一定の利息が受け取れる形式の債券が多くあります。この毎年受け取る利息のことをクーポンといい、前述したように額面金額に対する一定の比率（クーポンレート、または表面利率などという。必ず年率表示される）として計算されます。債券の現物には、毎回のクーポンに相当するチケットのようなものがたくさん付いており、それを債券を買ったところに持っていくとクーポンが受け取れます。ただし、投資家が債券の現物を保有することは少なく、システム的に債券保有者として登録しているだけの場合が多いです。

なお、クーポンが支払われるタイミングは、年1回、2回、4回、12回などさまざまですが、通常、日本国債は半年ごとの年2回払いです。

### 4. 利払日

クーポンが払われる日。ほとんどの国債は20日を利払日としています。

### 5. 価格

債券を購入するときの値段。通常、額面100円あたりの値段で表示されます。発行時点での価格は100円近辺であることが多い（100円ぴったりとは限らない）ですが、発行後、金利環境の変化等により、価格は100円から大きく乖離することもあります。

図表 14 債券のイメージ

・ 額面	100 万円
・ 償還年限	3 年
・ 表面利率	1.0%
・ 利払日	毎年 1/20、7/20



この債券の現物イメージ図

○ ○ × × 債券 金 百万円	
平成○5年7月20日 利金 金 5,000円	平成○5年1月20日 利金 金 5,000円
平成○4年7月20日 利金 金 5,000円	平成○4年1月20日 利金 金 5,000円
平成○3年7月20日 利金 金 5,000円	平成○3年1月20日 利金 金 5,000円

毎回のクーポンが 5,000 円なのは、以下の計算による。

$$1,000,000 \times 1.0\% \times 0.5 = 5,000$$

※表面利率は 1.0%だが、あくまで年率である。クーポンが半年ごとに支払われるので、毎回の受け取りは「額面×1.0%」の半分になる。この例に限らず、金融において、通常、金利、利息といったもののレートは年率で表示される。